



あぶと観音



鞆の浦



屋島

昭和 14 年に発行された大山・瀬戸内海国立公園 4 種のうち、2 銭大山を除いた 3 種です。切手カタログの説明では、4 銭屋島、10 銭あぶと観音、20 銭鞆の浦とありますが、このうちの「あぶと観音」は地元の方以外では「？」な人も多いかと思います。場所は広島県福山市の南部、沼隈町^{ぬまくまちょう}にある阿伏鬼岬^{あぶと}の突端に建つ観音堂です。特に洋上から見た光景が美しいとされ、現在のものは 1570 年（元亀元年）、戦国武将の毛利輝元が大檀那となって建立したもので、国の重要文化財です。航海安全、子授け・安産の祈願所として、切手図案になるほど昔は有名な景勝地だったのでしょう。

ところで不思議なことに、あぶと観音は鞆の浦からわずか数kmしか離れていないのです。瀬戸内海という広域的なエリアを対象としているのに何故こんなに至近距離の 2 か所から題材を選んだのかは謎です。『郵趣仙台』249 号の池田駿介さんの記事によると、瀬戸内海国立公園は当初、香川、岡山、広島 of 3 県が合同で国立公園指定の陳情運動をした経緯があるそうで、その結果だったとしても何か腑に落ちないものを感じてしまいます。

（記：藤岡 靖朝〈日本郵楽会会員〉）